

事業実施した地域からの声

有機・特別栽培米専用の乾燥調製貯蔵施設を整備して

高島町 (有)米工房たかはた

小林 亮

(有)米工房たかはたでは、価格が市場に左右され易い玄米流通からの脱却を図るべく、消費者との契約栽培を基軸とした直販体制に取り組み、食の安全・安心と、小口・多頻度・多品目の要求に応えるため、平成15年度アグリ・チャレンジャー支援事業の認定を受け、有機・特裁米専用の乾燥調製貯蔵施設を整備しました。

低温貯蔵や玄米調整から精米に至る処理工程を自己完結することで、品質・食味の高位平準化が図られました。また、出荷までの合理的な作業体系により、消費者ニーズへの迅速で、しかもきめ細かな対応が可能となり、付加価値の高い米の流通・販売が実現できました。

食管制度の崩壊以来、失われた米作農家の誇りを取り戻し、類なき安全と良質を併せもつブランドを確立し、和食文化の再興と地域再生をかけた私達の歩みは、いよいよ高まる食の安全への期待、有機農業推進法の制定、環境保護に関する地球規模での取り組み等、時代の追い風も伴って着実に前進できる背景を持つことになりました。

『高島を！』『置賜を！』『山形を！』

ゆるぎない安全良質な食糧基地としての地位を確立したいものです。



乾燥調製貯蔵施設（外観）



乾燥調製貯蔵施設（内部）

明日の農村を背負って立つ担い手の声

「尾花沢すいか」を中心にした周年農業に向けて

尾花沢市 (有)あべ農園

阿部 真一

日本一高品質なスイカを消費者に提供するにはどうするか。栽培技術の向上はもちろんのことですが、これからの農業では、如何にして売ることが課題になってきます。工夫して、付加価値を付けるなど、他の作物との差別化が必要になり、そこに、若者独自の発想とアイデアが発揮できるのだと思います。

日本一の「尾花沢すいか」を確立していくため、尾花沢と大石田地域の若手農業者が連携した「尾楽田の会」(会員 28 名)を結成しました。そこで、すいかの勉強会を行い、技術の向上と情報交換などで、日々研鑽を積んでいます。また、近隣の仲間とは、名木沢ファーム生産組合を組織して、ハウスすいかの早出し栽培にも取り組んでいます。

現在、大規模で安定した周年農業を目指し、冬期間のタラの芽の促成栽培に取り組んでいます。栽培面積 10ha を目標に頑張っています。



名木沢ファーム講習会



二籐袋講習会

明日の農村を背負って立つ担い手の声

地域の負債「耕作放棄地」を地域の資産へ

西川町 大泉 忠 昭

高齢化・担い手不足による耕作放棄地が年々増加の一途をたどっている。県内で一番農業規模の小さな西川町は、その波をもろに被っており、他市町村よりも深刻な現状である。

そんな中で、先代が守ってきた農地を次の世代へしっかりと残す！という取り組みを始めて2年がたった。

私も長年公務員をやっていたが、故郷の景観はそこに住む住民が守らなければならない。今の農政で問題なのは頭でっかちで兵隊がいないこと。行政もJAも声を上げることはできるが、1反歩ですら耕作放棄地を元には戻すことはできないのである。それが現実。

平成20年まで協力してくれた地主さんは30人以上、全て借地で、既に10ヘクタールを超えてしまった。

目指すは究極の土地利用型農業。月山の豊かな自然の中で、安全・安心な特別栽培米を栽培し直接お客様へ販売している。

ここに住む農業者がどうしても農業を続けることができなくなった時、安心して農地を託せる組織づくりに今日も奔走している。



除草作業（筆者）



耕作放棄地解消事業に参加した方々

事業実施した地域からの声

産直施設（どりいむ農園）を整備して

(有)どりいむ農園代表 田中良平

白鷹町では、地域農業の振興および都市と農村の交流促進により地域経済の活性化を図るために、平成 17 年 4 月に経営構造対策事業により産地形成促進施設（産直、園芸施設）を整備しました。現在は、白鷹町の食と農村交流施設として(有)どりいむ農園が管理運営しています。

この産直施設では、全て地区内で生産、製造された商品を販売しています。自然豊かな町内で、昔から作られてきた様々な野菜と果物、米、花、加工食品、更に伝統工芸品等、町内特産品が全て揃っています。特に主力の農産物は大変好評で人気があります。顧客は町内に限らず周辺市町村からも多数あり、生産農家は、「より新鮮で安心、安全、おいしい」を合言葉に、消費者ニーズを捉えた農産物生産に日々努力しています。

(有)どりいむ農園では平成 20 年度に、財団法人 地方自治情報センター (LASDEC) の e-コミュニティ形成支援事業に取り組みました。この事業で、地域 SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス：完全招待制で運用) を立ち上げ、携帯電話やパソコンでインターネットを活用して、白鷹町と都会を双方向に結び、情報発信基地になっています。このシステムを中心に白鷹町ファンを更に増やし、『どりまー』なる CSA (Community Supported Agriculture「地域に支えられた農業」) 会員の募集を行っています。

食の安全・安心が益々注目される時代になり、更に、産直施設を核に地域農業活性化を果たしていきたいと思えます。



(有)どりいむ農園 産直施設
(秋野菜果物即売会の状況)



産直施設 店内

明日の農村を背負って立つ担い手の声

農業は、若者の職業です！

国立ファーム株式会社 ガールズ農場
高橋 菜穂子

農業を始めて6年目になります。2年目に、山形県農業青年クラブに入会しました。

当時は、後継者不足、担い手不足、高齢化、そういうマイナスイメージばかり語られることに違和感を覚えました。「若いやる気のある人は、いるじゃない！」と。

そして、もうひとつ感じたのは農家に生まれた自分の特権です。農家に生まれていなかったら、農業を始めることがどんなに困難か、自分が恵まれていると感じました。

そこで、わたしは、農業をやりたいという人ができる職場を創造することに決めたのです。情熱があり、能力もある人が、集まる職場に、と言う思いをこめて開始したのが、国立ファーム ガールズ農場です。

まだまだ始まったばかり、この農場では、農作物に限らず加工品も、価値ある商品を生みだし、子ども達の笑い声が聞こえるような、女性が働きたい職場No.1に育て上げるのが、今の私の目標です。



担い手への農地利用集積により作業の効率化を実現し、

高生産性農業を目指して

遊佐町 後藤 孝徳

遊佐町の北部地区は90%が米作単一経営で個別営農指向が強く、組織的な営農体制への転換と経営の多角化が求められています。南西部地区は、米作と砂丘畑を活用した複合経営ですが、多くは小規模経営です。

両地区とも高齢化と兼業化が進んでおり、昨今の米価等農産物価格の低迷もあり、担い手を中心にした農地利用集積により、生産コスト低減と防除体制の集約・効率化、そして畑作の推進が、経営構造対策の課題になっています。

そこで、町では平成17年度に水田農業経営構造確立緊急対策事業に取り組み、北部地区では無人ヘリ2台と大豆コンバイン2台を整備し、農地利用集積を進め、防除の集約・効率化を促進しています。また、転作大豆の共同作業組織を育成し、高生産性農業を進めています。

南西部地区では大型コンバイン6台を整備し、集落毎に刈取班を編制して共同化により作業効率の向上を図ることで、余剰労力を園芸作物の作付け拡大に向け、高生産性農業を進めています。

本事業導入によって、両地区では担い手への農地利用集積が進み、作業効率の向上が図られ、北部地区では50haの農地が担い手へ集積され、防除体制の集約・効率化を実現しました。南西部地区では高付加価値野菜のパプリカの産地化が進み生産が拡大しています。また、各共同作業組織の経営は順調に行われており、共同作業組織は集落営農組織の設立に波及しています。

今後とも農地利用集積の連担化を一層進めることで、生産コストの低減と作業の効率化を計ってまいります。



大豆コンバイン



無人ヘリコプター



自脱型コンバイン